

見樹院ニュース

O T E R A N E W S

第52号 2010年6月7日発行

浄土宗 見樹院
住職 大河内秀人

〒112-0002

東京都文京区小石川3-4-14

TEL 03(3812)3711

FAX 03(3815)7951

Eメール: kenjuin@nam-mind.jp

[Http://www.nam-mind.jp](http://www.nam-mind.jp)

施餓鬼会のご案内

見樹会総会のお知らせ

本堂建設中のため、会場は伝通院「織月会館」で開催します。今後の運営方法についての協議事項もありますので、ぜひともご出席ください。

6月27日(日)
会場:伝通院・織月会館

東京都文京区小石川3-14-6

電話 03(3814)3701

伝通院本堂に向かって左側の建物です。
当日を含め、お問い合わせ・ご連絡は
見樹院(03-3812-3711)へお願い致します。

11時～ 受付

11時半～ 見樹会総会

- ・建設事業進捗報告
- ・見樹院の活動・運営について
- ・今後の見樹会運営について
- ・その他

12時半～ 施餓鬼法要

終了(1時半予定)後、お弁当・墓参

※折り返し、出欠(人数)、塔婆供養のご連絡をご返信下さい。
お塔婆は1本3000円で承っております。

年内の完成と来年の落慶・大遠忌に向け

工事期間中、皆様には大変ご不自由をおかけしております。着工から今年の前半まで、天候が不順で、進捗具合が気になります。何とか予定通りの竣工に向けて進められております。新しい伽藍は、書院(集会室)や客間などを、独立して利用していただけ、屋内に遺骨や位牌など、将来的なニーズに対応すべく設備されています。

また、これまで見樹院としては、墓地の管理費等制度はなく、各自のご判断(お気持ち)での「付届け」によって支えられてきました。それに対し、今の時代、世代交代もあり、墓地管理費や護持費など、金額を決めて徴収する制度にした方がよいのではないかという声も増えてきました。

そこで、今後の寺の運営・管理方法も含め、時代に合った仕組みが必要になります。さらに一方で少子化と家族状況の変化などで、合同墓や納骨堂など、ご供養の形態が多様化することにも対応していきたいと思っております。

見樹会の会費・制度の見直しを検討中

今回の見樹会及び見樹院檀

信徒総会において、住職及び総

代・世話人会からご提案させて

いただき、皆様のご忌憚のない

ご意見と合わせて、より良くこ

れからの見樹院に相応しい体

制についてご協議いただきました

くお願い申し上げます。

なお、見樹院でのご法事は、

落慶・お披露目に先がけて、一

月中旬から可能になります。ご

予定される方は、どうぞご遠慮

なくご相談ください。

今後の予定

十二月末

本堂・庫裏を含む伽

藍竣工、引渡し

一月中旬

ご本尊遷座
墓地整備開始

三月以降

落慶・お披露目

来年（平成二十三年）は 宗祖法然上人八百年大遠忌

浄土宗を開かれた法然上人

（源空）は、建暦（けんりやく）

二年（一一二二年）一月二十五

日、京都東山の禅房（現在の知

恩院勢至堂）において、八十歳

でお亡くなりになりました。

法然上人の忌日法要のことを、

特別に「御忌（ぎよき）」と称し

ます。本来、天皇家の法会の呼

称でしたが、一五二五年、後柏

原天皇より、法然上人の法要を

「御忌」と呼ぶよう勅許が下さ

れて、今日に至っています。

そしてその五十年ごとの節目

の御忌を「遠忌（おんき）」と呼

び、来年は『八〇〇年大遠忌』



として、浄土宗を挙げて様々な
記念事業に取り組んでいます。

子孫に残すべきものは？

法然上人の浄土宗を含め、鎌
倉仏教の歴史的意義は、何と言
つても、それまで貴族や僧侶な
ど限られた人々のためだった仏
教を、民衆のものにしたことで
す。拜んでもらう宗教から、自
ら念仏や題目を唱え、座禅を組
む信仰へ変わったことです。そ
れは宗教の権威に支配されてい
た人々が、自分の生き方や未来
を切り開く主体になった、まさ
に宗教「改革」だったのです。
未来に続く自分の生き方を、自
分が選べるという希望を得たの
でした。
私たちは、子孫のためにどの
ような未来を残したいのか。そ
してそこに至るにはどのような
一歩一歩を歩むべきなのか。
私たちの先祖は、過酷な歴史

を今日の発展に結び付けました。
その恩恵を受けた私たちは同時
に、多くの教訓を学びました。
そして今、様々な課題を突きつ
けられています。

自然環境も含め、文化や精神
の荒廃等々、現代社会が抱えて
いる問題の根本は、お金（マネ
ー）に支配され、経済成長を最
優先してきたことにあると思い
ます。

お金（価格）というものは、
経済の流れを効率化し、限られ
た資源を有効に使うための道具
だと言う人もいます。しかし現
実は、貯めこんで支配するため
の武器になり、また、高く売る
ため、あるいは安く買うために、
大量の資源がムダになります。

たくさんモノに囲まれなが
ら豊かさを実感できないのは、
それらがさらなるモノ、つまり
お金を必要とさせるからです。
車を持てば、ガソリンや車庫な
ど維持費がかかり、電化製品が
光熱費を引き上げ、買換えや廃
棄にますますお金がかかります。
世界中で、商品作物を作るよう
になった農民が、機械や農薬を

買うために出稼ぎするのと似て
います。そういう私も情けない
ことに、このキーボードをたた
きながら、ビル・ゲイツの蟻地
獄にはまっていたりします。

便利になっても楽にならず、
ますますお金のために働かされ、
振り回され、挙句、地球を壊し、
あらゆる命を脅かし、絶望をも
たらすのです。

私たちは、そういう悪い輪廻
から解脱しなくてはなりません。

お金に支配されない生き方

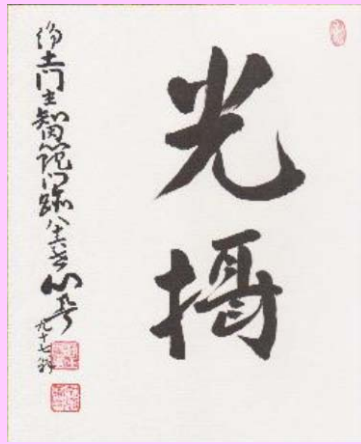
一つの方向は、私たちは、本
来、お金に頼らなくても生きて
いける資産を築くことです。も
のを作り出し、身の回りのもの
を活用する技術や知識もそうで
すが、隣近所があれば警備会社
に払うお金は要らなくなるとい
う意味では、信頼も資産です。
お金に頼り、結局お金に支配
される悪循環を脱し、本当に有
益な、有形無形の社会資産を積
み上げたいと願っています。そ
れが本来の宗教者の役割でもあ
り、人々に支えられた寺や教会
やモスクやってきたことです。

今の若者たちに「これからの世の中は良くなると思うか、それともっと悪くなると思うか？」という質問をしたら、ほとんどの人が「悪くなる」と答えたそうです。「そんなことはない」と自信を持って励ませる大人はどれくらいいるでしょうか。正直、絶望的と思うことも少なくありません。そんな押し潰

されそうな暗闇の中にも、否、その暗闇だからこそ発せられ、また気づくことのできる光があります。法然上人が、末法と言われた平安末期に出会ったのが念仏であり、その先に極楽浄土があると信じたのです。私は現代の闇である、戦争や人権侵害、環境破壊、高齢者問題、家庭やコミュニティの崩壊、

等等、様々な問題と向き合う中で、たくさん小さな光に出会うことができました。それらは皆、覇権国家や大企業に頼らず、地域で地道に、自分の手足で取り組む活動です。隣人との信頼の先に平和が、勤勉の先に繁栄があることを確信できる生き方です。昔は当たり前だった生活の誇りであり、

その背中を見て子どもたちは人間を学んだのです。
希望をつなぐ見樹院に
そういう希望を持って生活し、活動している人々。そして私利私欲ではなく、かといってきれいごとではなく、現実に社会がより良い方向へ向かうよう活動している人々との出会いとつながりが、より良き未来への確信になつていきます。



この色紙は、前浄土門主で総本山知恩院門跡の中村康隆大僧正猊下（げいか）のご染筆です。法類（僧侶の師弟関係としての縁戚）として、過日、知恩院で行われた3回忌のご法要に伺った折に、ご自坊の静岡清水の実相寺様から頂戴いたしました。

「光攝」（こうしょう）と書かれたこの言葉の意味は、阿弥陀如来の慈悲の光が、全ての行きとし生けるものに遍（あまね）く、分け隔てなく注がれているということ。その仏のご意志とお力を信じて、法然上人は念仏を勧め、多くの人々を救いました。どんな人でも必ず救われなくてはならないという信念は、今の時代にすれば「人権宣言」です。人種、性別、年齢、国籍……に関わらず命が尊ばれ、人生が幸せに全うされなくてはならないという宣言は、まさに阿弥陀如来の意志でもあります。

法然上人は、その仏の誓いを信じることにより、多くの人を殺めた武士や、女性は往生できないとされていた当時にありながら遊女たちに対しても、救いの手を差し伸べました。権威的に条件を付けて切り捨てることなく、悩みや苦しみを抱えた、一人一人の立場に立って、必ず救われるのだという「安心」を与えられたのです。教義を押し付けるのではなく、どんな人であつても、相手の立場に立って、とにかく何とかしてあげようという「意志」を社会化することが、現代の浄土門下の使命であると思います。

八百年前の法然上人は、人々自らが「念仏」を唱えるという形で、極楽浄土という希望につながる信仰生活を示されました。二十一世紀の見樹院では、人々が参加して社会を築く民主主義の真の担い手となる活動をみんなで支え、世代を超えた安心と希望を引き継いでいくことをめざします。法然上人の教えを受け継ぐものとして、「スクワール見樹院」が、そういう文化の社会資本を築く基盤となるべく、信念を持って取り組んでいきたいと思ひます。皆さんのご協力をお願いします。

お盆のお棚経について

全面的な建築中で、お寺での法要は休業状態ですが、お盆に任職がお檀家のお家にうかがう「お棚経（たなぎょう）」は、今年も例年通り行います。原則として、東京都内は七月、それ以外のお宅には八月の十三日から十五日がお盆期間を中心に、多少巾を持たせて日程を調整して伺っています。

京都・若狭への

参拝旅行は延期します

前回、計画中とご案内いたしました京都・若狭への参拝旅行は、訪問先の目玉である明通寺の三重塔（国宝）が改修工事中というので、来年以降に延期致します。楽しみにして下さった方、申し訳ありません。

できればこの秋に、近県の浄土宗ゆかりのお寺、または見樹院の新築工事で使用する材木の産地である宮城県栗駒への見学等を検討しています。

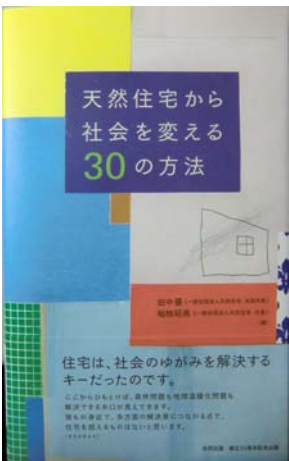
新盆の方（新しい仏様のある家）でご親戚が集われる場合は、優先して日程調整・時間調整をさせていただきますのでお早めにご相談ください。新しい方やこれまでうかがっていなかった方もご希望がありましたらご連絡下さい。遠方の方もどうぞご遠慮なく。飾り方なども、どうぞお気軽にお訊ね下さい。

精霊棚の飾り方

新刊書のご案内

『天然住宅から社会を変える30の方法』（合同出版、一三〇〇円十税）

合板や接着剤、塩ビ製品などの化学物質は使わず、木材は国産のむく材のみを使用、壁紙は特注の澱粉糊で貼る。全て天然



迎え火・送り火

精霊棚のお飾りは、地方や家によってもまちまちで、特に決まったしきたりがあるものではありません。仏壇の中に飾れる範囲でも結構ですし、特別な棚ではなく、身近な机などを代用してもOK。「お盆」のムードを出して、皆様で仏さまをお迎えしていただければと思います。

お盆のはじめ、夕方か夜に菩提寺とお墓に参り、祖先の霊を迎えます。これを「精霊迎え」と言います。この時に霊が迷わず帰ってこられるように芋殻（おがら）を焚くのが「迎え火」です。実際、火を焚くことができない場合が多く、代わりに期間中、盆提灯を灯すことが多いようです。

単に健康で、省エネで長持ちするだけではありません。この事業は、林業が崩壊し、荒れ放題になっていく日本の森林を再生し、さらには生活者の経済生活まで、持続可能な社会を構築する方法を示します。

住職も、見樹院のことを中心に一部執筆しています。

京都の「大文字焼き」も送り火の一つです。